



明化の教育

7月号（第447号）
平成29年6月30日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

多様で深い体験が子供の成長を支える

校長 溝畑 直樹



左の写真、3年生が校長室に飾ってくれたお花です。3年生は先日、学校支援ボランティアの郡司ますみさんを講師にお迎えして華道教室を行い、その学習の成果がこの花というわけです。

郡司さんが子供たちに教えてくださったことは「一輪の花の美しさをありのまま感じる」というとてもシンプルなことでした。難しい作法は一切ありません。自分が選んだ一輪の花をよく見、次に花器を見、そして花と花器とを一緒に見る。

花の一番美しいところを正面にし、一番美しいと思う長さに切って花器に生ける。本当にそれだけです。大切なことは、花の美しさに共感する「自分の心」なのだそうです。花の美しさが分かるということは、自分の心が元気な証しです。確かに、校長室に飾ってある花には、3年生の子供たちそれぞれの素直で優しい心が映し出されているように思います。

さて、6月16日に4年生は防災宿泊体験学習を行いました。大地震の後、保護者と連絡がとれなくなったため帰宅することができず、学校で一晩過ごすことになったという想定学習です。小石川消防署や日本赤十字社の皆さまのご協力をいただき、たくさんの体験プログラムを取り入れて、充実した学習にできました。食事準備や寝具の片付けなど、保護者の皆さまのお手伝いもたくさんいただきました。ありがとうございました。



災害が起こった時、命を守るためには冷静な判断に基づく行動が不可欠です。そして、その判断の基になるのは正しい知識です。例えば、

● 物の下敷きになって動けない時に助けを呼ぶ方法

→ 大声を出し続けていたずらに体力を消耗することは避けなくてはなりません。固い物で近くにある物を叩いて音を出すのがより良い方法です。

● 地下街で災害に遭い真っ暗になってしまったときは

→ パニックになって一か所に人が集中することは最も危険な状況です。地下街は60mに1つ出入口があります。慌てることなく壁に触れながら移動すれば、出入口を見付けることができます。

今回の防災宿泊でも、電気の消えた校舎を歩く体験の後、「暗い中を歩くと、いつも歩き慣れているところでも距離が長く感じる。」という発見をした子供がいました。普段と距離感が違うのだということを知識としてもっていれば、暗い中でも慌てず避難できるでしょう。

このように、学校では子供たちに知っておいてほしい防災のための知識を避難訓練の中でなるべくコンパクトに分かりやすく伝えていきます。こうした学習の積み重ねが、命を守る行動のスキルアップにつながっていくのです。

「明化こどもひろば」について…林町小学校校庭が工事により使えないため、夏休み期間中、林町小のこどもひろば(たいさん木の広場)も明化小校庭で実施される予定です。詳細は、「明化こどもひろば」から後日出されるお知らせをご覧ください。